

【建設DX 展来場者自主調査】BIM 導入後も「課題は多い」が7割
BIM 設計-生産-施工支援プラットフォーム「BuildApp (ビルドアップ)」（β版）の提供開始
BIM 活用、建設プロセスにおける課題解決を支援



野原ホールディングス株式会社（所在地：東京都新宿区、代表取締役社長：野原弘輔）は、建設DX推進を支援する新サービスブランド、BIM 設計-生産-施工支援プラットフォーム「BuildApp (ビルドアップ)」（β版）を2022年1月より提供開始しました。第1回建設DX展(2021年12月6日-8日開催)にて先行発表し、総合建設会社（以下、ゼネコン）をはじめとする建設産業関係者から多くの反響をいただいています。

弊社は、建設DX展にてBuildAppブース来場者向けにアンケート調査を実施（第1回建設DX展BuildAppブース来場者104人にアンケート調査）。結果、BIMを導入しているゼネコンの7割がBIM導入後に課題を感じていることが分かりました。

今後は、2022年7月の「BuildApp」正式版のサービス提供に向けて、アンケート結果も念頭に置き、実証実験等を進行しながら「生産性の低さ、低利益構造、建材廃棄、脱炭素化」といった建設産業の課題解決の基盤実現を目指します。

【アンケート結果トピックス】

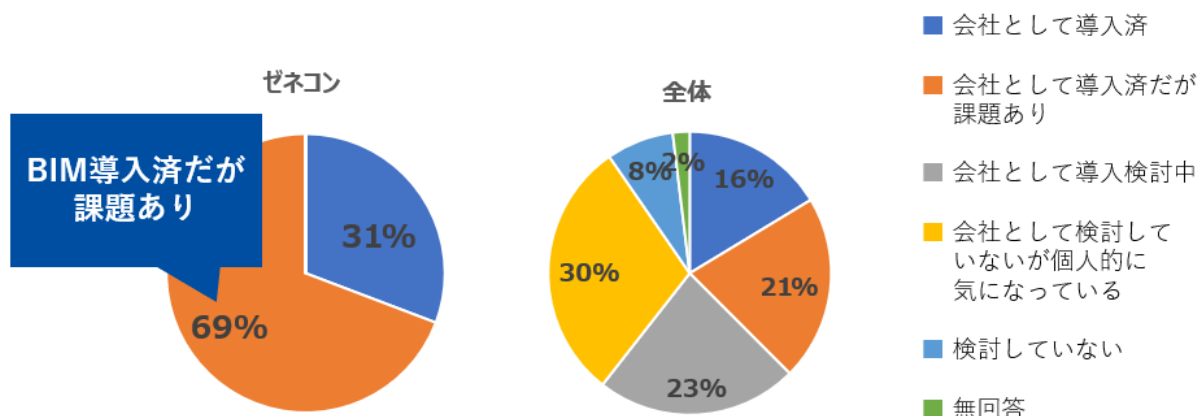
- ① BIMを導入しているゼネコンの7割はその活用に課題を抱えている
- ② 工程別でのBIM活用の課題は「設計・積算」43%、「施工管理」36%で上位

＜調査概要＞

- 1. 調査方法 : 第1回建設DX展（東京ビックサイト）BuildAppブース来場者にアンケート方式で実施
- 2. 調査対象 : BuildAppブース来場者のうち、ブース内の展示で説明を受けた、またはAR・VR体験をした建設プレイヤーを対象に実施
- 3. 有効回答数 : 102人
- 4. 調査実施日 : 2021年12月6日（月）～8日（水）

① BIMを導入している総合建設会社（ゼネコン）の7割はその活用に課題を抱えている

BIMの導入状況について

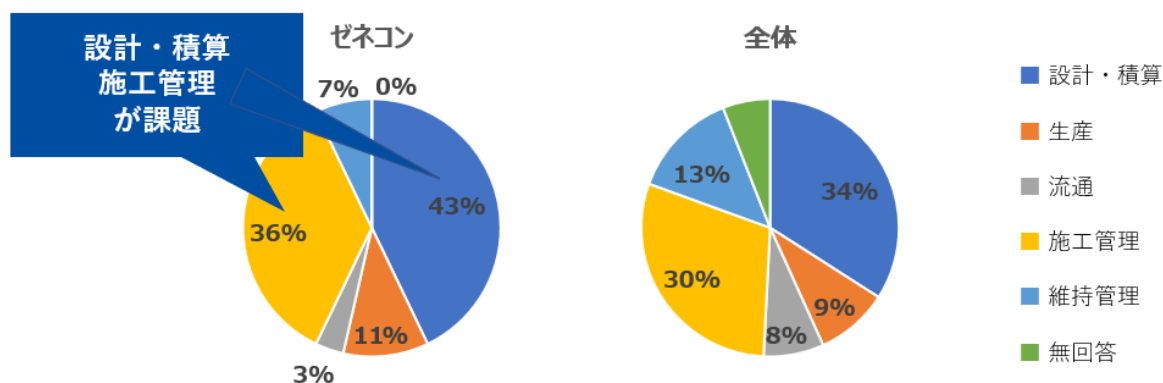


BIMの導入状況について回答者全体では37%が導入済と回答。導入検討や気になっている等の回答も多く、本格活用はまだこれからの状況です。

ゼネコンでは100%BIM導入済となりましたが、7割が導入後に課題ありと回答しています。課題内容は「浸透していない」「扱える人材の不足」「部門間の連携」と様々ですが、BIMモデルに基づいた関係者間の情報共有や各プロセスの効率的な管理といった生産性向上に資するBIM本来の特長を活かしきれていないという認識のようです。

② 工程別でのBIM活用の課題は「設計・積算」43%、「施工管理」36%で上位

課題と感ずるプロセス



BIM活用の課題に加え、「いま課題を感じているプロセスはどこですか？」については全体・ゼネコンを通じて「設計・積算」「施工管理」が多く、ゼネコンの方がより顕著な結果となりました。

具体的には「設計モデルと施工モデルの整合性が取れていない」や「設計した後工程へ繋げられない」等のプロセス間でのデータ連携に課題があることも判明しました。

BIM 設計-生産-施工支援プラットフォーム「BuildApp」(ビルドアップ)

上記のような BIM 活用や建設プロセスの効率化の課題に、「BuildApp (ビルドアップ)」はプロセスに応じたサービスを提供し、建設プレイヤーの皆様を支援して参ります。

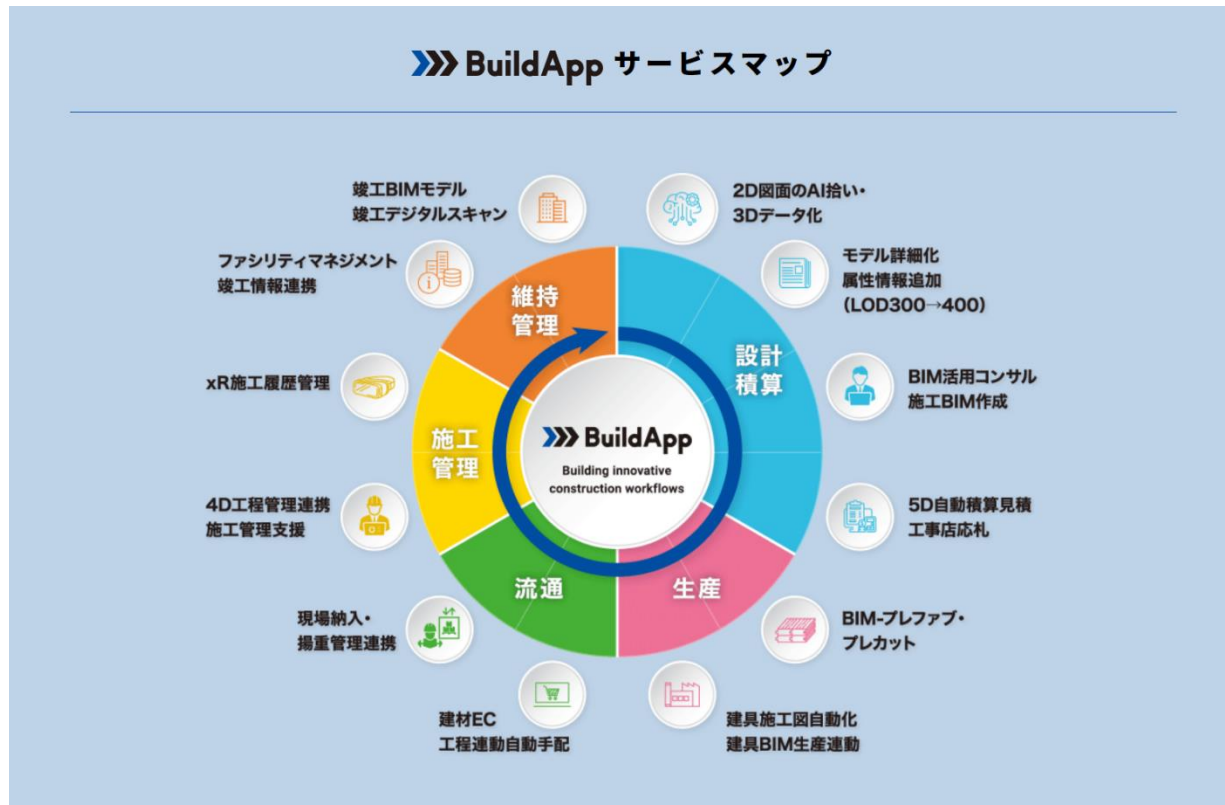
課題に感じている方の割合が多い「設計積算」や「施工管理」は勿論、各プロセス別やプロセスを繋ぐ課題やご要望に応じて、最適なサービスを提供します。詳細はお問い合わせください。

■お問い合わせ先

BuildApp サイトお問い合わせフォーム：<http://build-app.jp/contact/>

メール：info@build-app.jp

電話：03-6367-1634



工程	サービス	内容
設計積算	2D 図面の AI 拾い・3D データ化	平面図から内法面積を自動計測、3D データへ変換
	BIM モデル詳細化属性情報追加	BIM データに建材等の構成情報を追加し詳細化
	BIM 活用コンサル／施工 BIM 作成	BIM 導入の支援／施工図作成
	5D 自動積算・見積／工事店応札	建材単価や労務データを蓄積し自動積算、見積・入札まで
生産	BIM-プレファブ・プレカット	BIM 連携による正確なプレカット施工の実現
	建具施工図自動化／建具 BIM 生産連動	建具施工図を自動作成、承認が Web 上で可能 BIM と製作 CAD の連動による生産プロセス改善
流通	建材 EC／工程連動自動手配	BIM と EC 連携による発注作業の効率化
	現場納入／揚重 ¹ 管理連携	BIM と建材およびその揚重・荷捌きのデータ連携と作業状況の可視化
施工管理	4D 工程管理連携／施工管理支援	BIM と工程管理や業務効率化ツールとの連携、現場効率化支援
	xR ² 施工履歴管理	3D 撮影データによる工程ごと施工履歴管理が可能
維持管理	ファシリティマネジメント竣工情報連携	BIM とデジタルツイン情報を連携、竣工データ化
	竣工 BIM モデル／竣工デジタルスキャン	建物の空間をオンライン化し 3D デジタルツイン ³ を提供

今後は、実証実験等を進行しながら「生産性の低さ、低利益構造、建材廃棄、脱炭素化」といった建設産業の課題解決の基盤として、2022年7月の正式版のサービス提供を予定しています。7月以降も様々な建設プレイヤーの支援に向けて追加サービスの開発等、さらなるサービス拡充を予定しております。

●サービス概要

弊社は、政府によるデジタル化推進や、2050年までのカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）宣言を踏まえ、DXによる現場の課題解決や産業廃棄物・CO2の削減に取り組む企業を支援したいという思いから、「BuildApp（ビルドアップ）」を開発しました。

名称	「BuildApp（ビルドアップ）」（β版）
開始時期	2022年1月 ※正式版は2022年7月開始予定
価格	β版は月額費用無料、初期費用はお問い合わせください。
お問い合わせ	BuildAppサイトお問い合わせフォーム： http://build-app.jp/contact/ メール： info@build-app.jp / 電話：03-6367-1634
Webサイト	https://build-app.jp

【BuildApp ブランドムービー】 https://www.youtube.com/watch?v=o_HNluRrCeQ

【BuildApp サービス紹介ムービー】 <https://www.youtube.com/watch?v=BABxDvv5lCU>

【BuildApp News】 <https://news.build-app.jp>



建設DXやBIMに関連する業務役立つニュースを配信しています。

野原ホールディングス株式会社について

野原ホールディングスを中心とする野原グループは、「CHANGE THE GAME. クリエイティブに、面白く、建設業界をアップデートしていこう」のミッションのもと、これまで培ってきた知見をさらに磨き未来につなげていくことで、より一層社会に貢献して参ります。

<https://nohara-inc.co.jp>



【お客さまからの問合せ先】

野原ホールディングス株式会社
建設DX推進統括部
e-mail：info@build-app.jp

【報道関係者からの問合せ先】

野原ホールディングス株式会社
経営企画部(担当：齋藤)
e-mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp

1 揚重とは、建設作業所（建設現場）の搬入口にトラックなどで運搬されてきた建築資材を、指定された建築中の部屋や場所に、必要な数量に振り分け運び入れる業務を言います。

2 エクステンデッド・リアリティ（Extended reality, XR）とは、「VR」「AR」「MR」などの総称。VR（仮想現実）は、仮想の世界を現実のように体験できる技術。AR（拡張現実）は、現実の世界に仮想の世界を重ねて体験できる技術。現実世界の映像があり、その上に仮想世界の情報が重なるイメージ。MR（複合現実）は、現実と仮想世界を“融合させる”ことができます。

3 デジタルツインとは、現実の世界から収集した様々なデータをまるで双子であるかのように、コンピュータ上で再現する技術を言います。